

Press Release

2025 年 6 月 17 日

「2025 年度 びわ湖 100 地点環境 DNA 調査『びわ湖の日チャレンジ！みんなで水を汲んでどんな魚がいるか調べよう！』」を実施

琵琶湖岸の 100 地点で生息している魚類を丸ごと検出する調査、今年の参加団体を募集



【本件のポイント】

- 「びわ湖 100 地点環境 DNA 調査」は、龍谷大学が 2021 年度にスタートした年に 1 度の市民参加型の全県一斉調査で、2024 年度より包括連携協定に基づき滋賀県との共催事業として実施
- 市民参加による環境 DNA 分析^①を用いた観測としては国内最大規模。分析データを琵琶湖の生物多様性の保全に役立て、SDGs の達成に寄与することが目的
- 「びわ湖の日」^②をきっかけに琵琶湖への思いを共有し、環境を守る取り組みの一つとして提案
- 滋賀県が 2024 年 3 月に策定した「生物多様性しが戦略 2024」に基づくネイチャーポジティブの実現に向けた行動を推進

【本件の概要】

龍谷大学 生物多様性科学研究センターでは、汲んだ水に含まれる DNA から生息する生き物の情報をとりだす「環境 DNA 分析」の研究・技術普及を進めています。環境 DNA 分析を使えば、現場では水を汲むだけで捕獲を伴うこれまでの調査よりも容易に高精度な野生生物の分布調査ができます。

本学では 15 年以上にわたりこの技術の開発を進める中で、2021 年「びわ湖の日」40 周年を契機に、琵琶湖岸の 100 地点を対象に生息している魚類を丸ごと検出する調査プロジェクトを企画し、これまで多くの団体にご参加いただきました。それから 4 年で琵琶湖に生息する合計 50 種（分類群）以上を検出し、外来種・普通種・希少種・絶滅危惧種の詳細な分布状況と経年変化を明らかにしています。

2025 年度も昨年度に続き包括連携協定に基づいて滋賀県との共催事業として 8 月に一斉調査を行います。実施にあたり、ご協力いただける団体を募集します。琵琶湖の湖岸線をほぼ等間隔に 100 区画に区切った地点において、参加団体が専用の「採水キット」で湖水を汲み、本学へ送付してもらうことで試料を集めます。調査データは、琵琶湖の生物多様性の保全に寄与する重要なエビデンスとなります。本調査への参加を契機に、身近な水辺にすむ魚を通して琵琶湖を含めた自然環境のことに思いを巡らせることを期待しています。

1. 調査の募集概要

- 名 称：2025 年度びわ湖 100 地点環境 DNA 調査
『びわ湖の日チャレンジ！みんなで水を汲んでどんな魚がいるか調べよう！』
- 参加募集：2025 年 6 月 17 日～7 月 10 日（参加団体が決定しだい終了）
- 調査実施：2025 年 8 月 2 日～8 月 31 日（8 月 8 日～8 月 16 日を除く）
※上記日程のなかで参加団体の希望を勘案して決定（事前に日程調整）
- 参加費：無料（汲んだ水の送料は龍谷大学が負担）
- 募集対象：環境保全活動を行っている NPO や企業などの団体

※1 団体あたり 5～10 地点程度の採水調査を担当し、詳細は個別に調整。
(水を汲むだけの調査ですので、原則として 1 日で完了する見込み)

－ 申込フォーム：<https://qr.go.page.link/YVp1s>

※採否のお知らせや具体的な調査の進め方の連絡、調査の日程の相談等は、龍谷大学生物多様性科学研究センターが個別に対応

－ 備 考：今年の調査結果はオンライン報告会等を介して広くお知らせする予定

2. 用語解説

① 環境 DNA 分析

環境 DNA 分析とは、生物を直接サンプリングせずに、水や土などの環境媒体に含まれている DNA の情報（生き物が糞や粘液として放出したもの）を基に、そこに生息する種の分布や多様性、量を推定する分析手法です。採取した環境 DNA を PCR 法で増幅し、DNA などの遺伝子配列を高速大量に解析できる「次世代シーケンサー」で読み解くことで、コップ 1 杯分の水から周辺の生物相が分かるようになりました。生物を捕獲することなく「水から」検出できる簡便さから、生物多様性の観測や水産資源の管理に革命をもたらすとされます。



② びわ湖の日

7 月 1 日「びわ湖の日」は琵琶湖への思いをみんなで共有し、環境を守る取組を行う象徴的な日です。滋賀県では、「びわ湖の日」（7 月 1 日）から「世界湖沼の日」（8 月 27 日）までを琵琶湖と関わる重点期間と位置づけ、環境保全活動のほか、暮らしや食、学びなどの様々な観点からそれぞれ自分に合った「びわ活」（注 1）を呼びかけています。

（注 1）「びわ活」とは、「びわ湖の日」（7 月 1 日）から「世界湖沼の日」（8 月 27 日）までを重点期間とした、琵琶湖を守る、琵琶湖と暮らす、琵琶湖と親しむ、といった琵琶湖と関わるさまざまな取組や活動をいいます。
「びわ活ガイド」<https://www.pref.shiga.lg.jp/biwakatsu/>

7月1日 びわ湖の日



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から



問い合わせ先（本調査に関すること）：龍谷大学 研究部（生物多様性科学研究センター）

Tel 077-543-7746 ryukoku.biodiv@gmail.com <https://biodiversity.ryukoku.ac.jp/>

（琵琶湖の保全再生に関すること）：滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課

Tel 077-528-3463 dk00@pref.shiga.lg.jp <https://www.pref.shiga.lg.jp/>

（配信先）京都大学記者クラブ、宗教記者クラブ、滋賀県教育記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ

なお、本件は滋賀県から滋賀県政記者クラブにも配信しております。

Less Me More We

あなただけの世界から、私たちが想う世界へ。

龍谷大学は、自らを見つめ直し（Less Me）、他者への思いやりを持つ（More We）ことを表す行動哲学、「自省利他」を実践していきます。

龍谷大学は、1639年に京都・西本願寺に設けられた学寮に始まる10学部、1短期大学部、11研究科を擁する総合大学です。

私たちは、「自省利他」を行動哲学として、地球規模で広がる課題に立ち向かい、社会の新しい可能性の追求に力を尽くしていきます。